

# あびこ女性会議ニュース 第27号

発行:あびこ女性会議 発行日:2020年2月20日

あびこ女性会議ブログ: <http://www.voluntary.jp/weblog/myblog/1520>

## どうなの? 我孫子市議会の女性議員比率



昨年11月に我孫子市議会議員選挙が行われ、新たに24人の市議会議員が決まりました。そのうち女性議員は1人増の5人、女性議員比率は20.8%となりました。これまではどうだったのか、他の都市と比べてどうなのか、調べてみました。

- 女性議員が初めて誕生した昭和38年選挙からの女性議員比率は資料1のとおりです。
- 近隣市ではどうなのか。東葛6市、その他の都市の状況は資料2、資料3のとおりです。我孫子は少ない? まずまず? あなたはどうみますか。
- 女性議員比率の高い都市は、1 交野市 (50.0%)、2 清瀬市 (45.0%)、3 武蔵野市 (44.0%) 4 多摩市 (42.3%)、5 東村山市 (41.6%) です。
- 国会では、衆議院 10.1%、参議院 22.9%と、日本での政治分野への女性の参加は、諸外国と比べ進んでいません。国やまちの方向を決める場には多様な人が参加し、多方面からの活発な議論が交わされることが求められているのです。

資料1 我孫子市(町)議会議員の女性議員比率

選挙年	定数	男:女	女性比率
昭和38年(1963)	30	29:1	3.3%
昭和42年(1967)	30	29:1	3.3%
昭和46年(1971)	30	28:2	6.6%
昭和50年(1975)	30	28:2	6.6%
昭和54年(1979)	32	30:2	6.3%
昭和58年(1983)	32	30:2	6.3%
昭和62年(1987)	32	30:2	6.3%
平成3年(1991)	32	27:5	15.6%
平成7年(1995)	32	23:9	28.1%
平成11年(1999)	30	22:8	26.7%
平成15年(2003)	30	19:11	36.7%
平成19年(2007)	28	21:7	25.0%
平成23年(2011)	24	20:4	16.7%
平成27年(2015)	24	20:4	16.7%
令和元年(2019)	24	19:5	20.8%

資料3 近隣市の女性議員比率

	女性議員数/議員数、(比率)
印西市	6/21 (28.5%)
白井市	8/21 (38.0%)
取手市	7/23 (30.4%)
守谷市	5/19 (26.3%)
牛久市	9/22 (40.9%)

資料2 東葛6市の女性議員比率

	2018年度 女性議員数/議員数 (比率)	2019年度 女性議員数/議員数 (比率)	順位
我孫子市	4/24 (16.6%)	5/24 (20.8%)	4
柏市	9/36 (25.0%)	9/36 (25.0%)	1
松戸市	11/44 (25.0%)	11/44 (25.0%)	1
流山市	7/27 (25.9%)	6/28 (21.4%)	3
鎌ヶ谷市	4/24 (16.6%)	3/24 (12.5%)	6
野田市	5/28 (17.8%)	5/27 (18.5%)	5

※数字は各市のホームページ、総務省の資料からまとめました。

### あびこ女性会議

性に関わりなく自分らしく生きられる社会を目指して活動する市民グループです。

ご一緒に活動しませんか。

問: 佐竹 (04-7139-6219)

# 講演会報告 変えられるか！私たちの社会

## ～モヤモヤで終わらせないために～

2019年12月7日、あびこ女性会議は市と共同で講演会を開催しました。講師は中央学院大学准教授・皆川満寿美さん。我孫子市男女共同参画審議会の委員長でもあります。皆川さんは社会学者で長年ジェンダーの研究や活動に取り組んで来られた方、その知識や経験からの確固たる姿勢に基づいた力強い講演となりました。



### ●あなたのモヤモヤを男女共同参画、ジェンダーの面から考えてみましょう。

モヤモヤ…自分が何か言いたいのにことばにできない。言いたいことはわかっているのに発言できない。

#### ●法や制度はできても日本のジェンダーギャップ指数は低い

1999年男女共同参画社会基本法が制定され、男女共同参画社会の実現が21世紀の日本を決定する最重要課題とされました。1975年国連の国際婦人年、1979年女性差別撤廃条約採択から続く国連の動きに後押しされ、日本も進んできました。男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、パート労働法、介護保険法、最近では、女性活躍推進法、政治分野における男女共同参画推進法など、政策手段として法は増え制度は整ってきているはずなのに、昨年のジェンダーギャップ指数は149カ国中110位（※講演会后発表された2019年報告書によれば153カ国中121位）。

依然として  
男女格差が  
大きい日本

#### ●意識や実態は変わった？ 変らない？——さまざまなデータから——

★性別役割分業観「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという考え方」について、そう思わない人が僅かに半数を超えて来ているが概ね半分半分。20代の若い年代でそう思う人が多いことが気になる。

★共働き世帯と片働き世帯数では、35年間で共働き世帯が大きく増加し数は逆転。

★年齢階級別労働力率（いわゆるM字カーブ）は次第になだらかに。

★第一子出産後の継続就業率は長期的に4割前後で推移していたのが、ここに来て53%と大きくアップ。非正規労働者も育児休業取得が可能になったため。でもまだ半分の人が就業継続できない。

妻は家庭を  
守るべき？  
共働き世帯  
の増加

★男女労働者の正規・非正規の状況は、全体的に非正規雇用者が増加傾向。男女別にみると正規雇用者の約7割が男性、非正規雇用者の約7割が女性。

★給与について階層で見ると、女性は100万円超200万円以下が約25%と最も多く、200万円超300万円以下がそれに続き収入の低いところでの偏りがある。

★女性の就業希望者の内、7割以上が非正規を希望している。その約4割が出産・

育児・介護・看護をその理由にあげている。

★2016年の1日の家事育児関連時間は妻が7時間34分に対し、夫は1時間23分と他の先進国と比べ男女差が大きい。過去20年の変化をみても妻が4分減少、夫45分増えただけ。

女性は非正  
規雇用が多  
く、低収入

★2017年度の男性の育休取得率は民間企業が5.14%。その取得期間をみると5日未満が57%。国家公務員では取得率10%、期間は1月以下が68%で、これが育休と言えるのかと思うほど。女性の取得率は民間企業も8割程度で推移しており、期間は1年程度が多いのに比べ、率、期間ともに男女の差が大きい。

★妻の従業上の地位と家事分担の割合は、妻常勤の家庭でも、1割の家庭で妻が全ての家事を担っている。専業主婦の家庭では、19%の家庭で妻が全ての家事を担い、妻パートの家庭でも専業主婦の家庭とほぼ同じ18%の家庭で妻が全ての家事をしている。家庭を背負ってパートで働く女性の姿が見えてくる。

仕事も家事・育児も担う女性

★労働市場は包括的無限定な働き方を強制される正社員、最低賃金に張り付く非正規社員に二極化している。非正規で低賃金の仕事に女性が集まる（集められる）。

★ある女性たちは家族形成をせず昇進を求め、ある女性たちは昇進や、やりがいがある仕事ではない就業継続（マミートラック）を追求する。現状の中でこのような選択（選択とは言えないか）を迫られる女性たち。

★依然として男性稼ぎ主型（標準世帯）とそれを支える生活保障システム（雇用、社会保障、税制などの構造）が変らない。このことが、日本において女性が生活困難に陥るリスクが高いことにつながっている。

子どもの貧困問題を産むシステム

★この仕組みの最大の被害者はシングルマザーとその子たち。一人親世帯の貧困問題は深刻。2015年大人2人以上の世帯の貧困率10.7%に対し、一人親世帯では50.8%と約5倍。

★2017年の出生数946,065人となっている（2018年918,397人、2019年はさらに減少の見通し）。少子化はますます進行し歯止めはかからない。

★日本は、稼ぎ手、世帯主としての男性中心、女性は全家庭責任、世帯主男性に付随しての保障といった「男性稼ぎ主型」であるが、男女ともに稼ぎ手であり、家庭責任を持つ「両立支援型」生活保障システムへの移行が求められている。

求められる  
両立支援型  
生活保障

## ●自分たちの周りを見つめて声をあげよう 世界的な動きにも目を向けて

さまざまなデータを使って男女間の格差、また男女間だけではない格差の実情等を、国際比較も交えて述べてきました。日本は先進国と思っているかも知れませんが、他の先進国に取り残されています。もう先進国と思わないで、しっかり自分たちの周りを見つめて、ダメならダメと声をあげていく必要があります。

国連は2015年「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）」を採択、17ある目標の5番目に「ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女兒の能力強化を行う」を掲げました。このような世界的な動きにも目を向けてほしいと思います。このような視点は私が関わった我孫子市第3次男女共同参画プラン作成過程でも意識してきました。

●講師のお話の後、参加者はグループごとに感想などを話し合いました。

○女性の経済力がさまざまな問題につながっていると感じた

○いきなり働き方改革、女性活躍と言われてもピンとこない

○男性の働き方を変えていかなければ ○男女の賃金格差は問題 ○女性議員を増やさなければ

○みんなの意識自体を変えていかなければ……… などの意見が出されました。



## 力強いチョイスができる子どもに

親子ルーム「バンビーノ」を自宅で運営する

### 深津 様子 (ふかつ さちこ) さん



深津さんは22年前に我孫子市に来て、「QPキッズ」という親子サークルに参加したのをはじめ、「あびこ子どもネットワーク」や「スマイル・ママ」、子育て応援プロジェクト「ハピネス」、「げんきフェスタ」、「あびこ子どもまつり」などにに関わり、我孫子の子どもたちのために活動してきました。

—バンビーノを立ち上げたのは？

自分の子どもが全員小学生になったとき、保育士の資格を持っていても働いていない仲間7人とバンビーノを立ち上げました。子どもが保育園に行っていないお母さんがちょっと子どもを預ける場所が必要だと思ったんです。理由は何でもいい、美容院に行く、病院に行く、PTA行事に出るとか、子どもを育てていると、数時間でいいから預かってほしいときってありますよね。基本は有料だけど、支援が必要なご家庭は無料で預かっています。私は行政からも援助してもらっていないから、自由にできるんです。支援しているお母さんとの関係でこれまで続けてこられたと思います。もちろん家族（夫と娘3人）の協力があってからですよ。

—預かるお子さんはほとんど口コミで？

知り合いから聞いた方がほとんどで、あとは時々保健センターとか市役所から、深津さんという人がいるからって紹介されてきたりとかします。行政ではできないけど、支援を必要としているお子さん、お母さんはいっぱいいます。私は自由にやっているから、時間が許せば市外にも行くし、必要ならその子どもを支援している部署ともつながるようにしているんです。自分で情報を取れてつながれるお母さんもいるけど、支援につな

れないお母さん

もいますから、やっぱり行政との連携ってとても大切です。

—お母さん、子どもたちについて

今はお母さんも子どもたちも忙しくて大変。遊ぶ暇もないぐらい。お母さんはみんな一生懸命に育てていると思います。子どもの支援に行くと、お母さんが大変な時にはそばにいて話をしたり、一緒に家事をしたりすることもあるんですよ。

乳児から小学生までいろんな子がいますね。お勉強が得意な子にはもっと遊べていうし。うちに来ている子ども同士顔見知りになって、兄弟のように遊んだり喧嘩もしたりします。そうやって小さいときから見ていた子が、今度は「あびこ子どもネットワーク」のジュニアスタッフとして来てくれたりすると、かわいいし嬉しいですね。幼稚園の子も保育園の子も違いはないですね。男の子の子の差もないと思います。

私は子どもたちに、自分の幸せを自分でつかんでいく子どもになってもらいたいし、その力強さを身につけていってほしい。正しい判断ができる力、チョイスする力が一番大事だと思うんです、男でも女でもね。

いろんな生き方があると思う。働きたい人はバリバリ働けばいいし、子どもといたい人は子どもとの時間を大切にしたらいい。男も女も自分の生き方は自分で選ぶんだから、自分で選べる子に育てたいのね。“何”に育てるかじゃなくて、“どういう子ども”に育てたいかが大事だと思いますよ。そういうつもりで今までやってきたし、これからも続けたいと思います。（文・柳川眞佐子）